

(一財)新潟県バスケットボール協会(NBBBA)主催
競技会運営ガイドライン (令和3年2月3日版)



NBBBA
NIIGATA BASKETBALL
ASSOCIATION

<はじめに>

本マニュアルはNBB A主催の競技会開催のため、新型コロナウイルス感染症（以下：COVID-19）対策について示したものである。なお、運用については政府や各地方自治体、及び厚生労働省・文部科学省・国立感染症研究所の最新の方針・情報を前提に、スポーツ庁・日本スポーツ協会などの上意団体の指針に従うものとする。

- ・本ガイドラインは、NBB Aが主催する大会にのみ拘束力を行使することとする。
- ・本ガイドラインは、必要とした場合には改定を行うものとする。

<感染対策のポイント>

大きく分けて「個人の感染予防」と「感染者発生時の濃厚接触者の最小化」の二つとなる。

なお、国立感染症研究所感染症疫学センターが発表している濃厚接触者の定義は以下の通りである。

（新型コロナウイルス感染症患者に対する積極的疫学調査実施要領 2020年5月29日公表より抜粋

<https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/corona/2019nCoV-02-200529.pdf>）

- 「濃厚接触者」とは、「患者（確定例）」（「無症状病原体保有者」を含む。以下同じ）の感染可能期間に接触した者のうち、次の範囲に該当する者である。
 - ・ 患者（確定例）と同居あるいは長時間の接触（車内、航空機内等を含む）があった者
 - ・ 適切な感染防護無しに患者（確定例）を診察、看護若しくは介護していた者
 - ・ 患者（確定例）の気道分泌液もしくは体液等の汚染物質に直接触れた可能性が高い者
 - ・ その他：手で触れることの出来る距離（目安として1メートル）で、必要な感染予防策なしで「患者（確定例）」と15分以上の接触があった者（周辺の環境や接触の状況等個々の状況から患者の感染性を総合的に判断する）。

* 新型コロナ接触確認アプリ（COVID-19 Contact-confirming Application：以下COCOA）による「接触通知」について

2020年9月4日現在、厚生労働省からリリースされたアプリをダウンロードして利用する「COCOA」が全国運用されている。本アプリを登録した者同士が、約1m以内に15分以上近接した場合に、Bluetooth機能によって自身のスマートフォンに2週間分のログが残る。その後、相手が患者（確定例）もしくは無症状病原体保有者となり、陽性者登録をした際には、自身のスマートフォン内にログが残っている場合に「接触」通知がなされる。2020年8月21日に、厚生労働省からの通達として、COCOAによる接触通知を受けたものは、保健所などを經由して「PCR検査を受ける」ことになっているが、本人が濃厚接触者に当たるかどうかは保健所の判断となる。

（参照：<https://www.mhlw.go.jp/content/000661724.pdf>）

このことから、濃厚接触者にならないためには各個人の「予防」が重要である。

これらを踏まえ、具体的な対策方法を以下に示す。

- ・ 3密（密閉・密集・密接）を避ける

- ・ 手指衛生

手洗いは以下のイラストを参考に、30秒以上かけて行う

アルコールを用いる場合は70%以上の濃度を用いる

- ・ マスクの着用（ユニバーサルマスクポリシー※）

特に、咳エチケットを徹底

- ・ 周囲環境や物品の消毒

特に接触感染対策として、動線が交差するところなどの消毒を考慮する

アルコールを用いる場合は70%以上の濃度を用いる

0.05%次亜塩素酸ナトリウムも使用可能であるが、希釈の際には十分な喚起を行うこと

※すべての者が病原体保有者であり、感染拡大防止のためにマスクを装着する考え方
(マスク単独での感染対策は不十分であることを留意する)

感染症対策へのご協力をおねがいします

！手洗い

新型コロナウイルスを含む感染症対策の基本は、「手洗い」や「マスクの着用を含む咳エチケット」です。

ドアノブや電車のつり革など様々なものに触れることにより、自分の手にもウイルスが付着している可能性があります。

外出先からの帰宅時や**調理の前後**、**食事前**などこまめに手を洗います。

正しい手の洗い方

手洗いの前に

・爪は短く切っておきましょう
・時計や指輪は外しておきましょう



1 流水でよく手をぬらした後、石けんをつけ、手のひらをよくこすります。



2 手の甲をのぼすようにこすります。



3 指先・爪の間を念入りにこすります。



4 指の間を洗います。



5 親指と手のひらをねじり洗います。



6 手首も忘れずに洗います。

石けんで洗い終わったら、十分に水で流し、清潔なタオルやペーパータオルでよく拭き取って乾かします。

首相官邸
Prime Minister's Office of Japan

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

厚労省

検索



<運営時における感染対策>

段階的な練習再開において、適切な感染対策を講じ問題が発生していなければ、競技会開催においても有症状者はいないはずではあるが、市中感染のリスクが常にあるため、自身が無症状病原体保有者となる可能性は否定できない。このため、感染対策においては、システムやマニュアルの個人・チームの遵守が最重要となる。今一度、スタッフやチームメイト、対戦相手、および試合運営に関わる全てのスタッフを守るため、各人が意識をもって取り組んでほしい。

以下、競技会運営時における感染対策のポイントを記載するが、設備・物品などの制約があり、全ての対策が講じることが困難である場合にも、最大限にそれらに準ずるような対策を試み、それでも十分な対策が困難である場合には試合中止も検討する。

本ガイドラインで提示する感染対策は、感染拡大の確率を下げるための対策である。「濃厚接触者」の最終的な認定は保健所が総合的に判断するものであり、本ガイドラインの指標による判断は行わない。

① 競技会開催判断と条件

NBBA内に設置したCOVID-19対策チームが、以下の条件をもとに判断する

- 1) COVID-19対策チームとは、NBBA会長、NBBA専務理事、NBBA副専務理事、NBBA競技会委員長、NBBAスポーツ医科学委員長、NBBA事務局長で構成されたチームを示す
- 2) 政府・各都道府県の自治体・県スポーツ協会・各会場の方針として競技会（試合）開催が可能であること
- 3) 各選手が、身体的に試合可能なコンディションであること
- 4) 競技会開催前、棄権や辞退するチームが多数出た場合は、開催を中止とする
*多数とは…競技会ごとにCOVID-19対策チームが判断する（競技会要項に明記する）
目安は参加チーム数の10%とする。

※なお競技会開催中においては、市中蔓延状況や陽性者及び濃厚接触者の状況に応じて、COVID-19対策チームが開催継続の判断を行う

② 試合当日の流れに沿った感染対策

全ての場面で共通する注意点は、以下の通りである。

- ・3密の徹底
- ・タオルやドリンクボトルの共有を避け、可能な限りソーシャル・ディスタンスを保つ
- ・手指衛生の徹底
- ・ウォーミングアップおよび試合中の一部を除き、全関係者がマスクを着用する
- ・軽微でも身体症状に異変があれば、無理をしない、無理をさせない

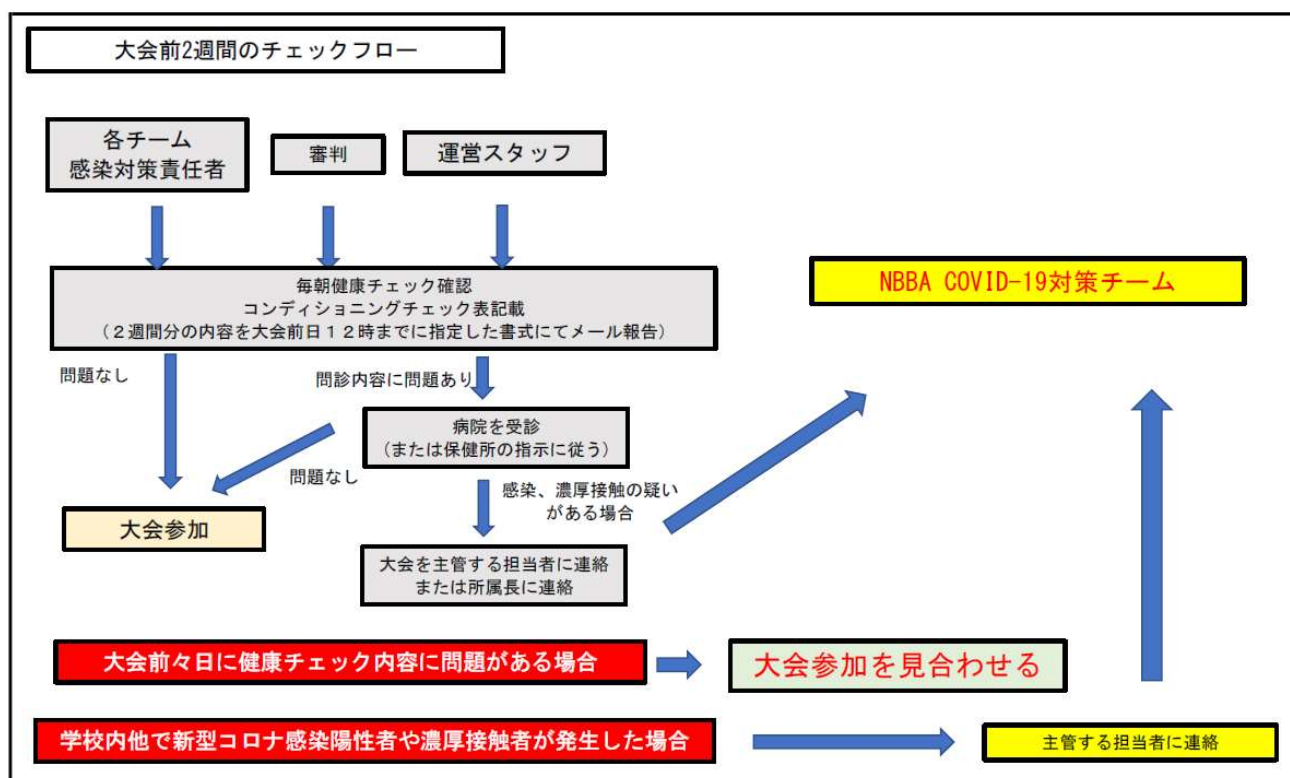
1) 試合当日まで

各チームで感染対策責任者を設置し、適切な感染対策を講じた上で、以下を実施する。

- ・個人：1. 2週間以内の行動記録の保管
 - ⇒必要時、濃厚接触者認定における判断材料となる得る
- 2. 毎日の検温と自覚症状の確認
 - ⇒確認内容は、最低でも以下①～⑤の事項を網羅すること
 - ① 体温
 - ② 倦怠感の有無
 - ③ 咳の有無
 - ④ 喉の違和感や痛み
 - ⑤ 味覚・嗅覚の異常
 - ⇒各チームの感染対策責任者へ、毎日報告する

NBBA公式ホームページに掲載している、コンディショニングチェック表をダウンロードして使用する (<https://niigata-basketball.jp/participant>)

- ・各チーム：集計方法に関しては指定しないが、感染対策責任者が自チーム所属選手及びスタッフの上記内容について、毎日の確認を行う（集計に際しチーム内に別途担当者の設置は可）。
- ・試合前日の12時までには、チームの感染対策責任者からCOVID-19対策チームへ、上記のコンディショニングチェック表を添付し、下記アドレスへメールにて状況報告を行う。
状況報告先メールアドレス：nbba.covid_19@niigata-basketball.jp



大会日程が変則開催の場合、提出する書類は別途主管する担当者から、大会要項と一緒に連絡を行う

- ・運営スタッフ、審判、報道関係者、共催団体も同様の記録の保管と前日の報告を行う。運営スタッフについては主管する部会長へ、審判については審判委員会、報道関係者については広報委員会、共催団体については別途担当者を設けて取りまとめる。
- ・観客、運営スタッフ、報道関係者、共催団体、その他を含めた入場者数は、その時点での社会情勢に応じて COVID-19 対策チームで検討し決定をする。
- ・協会は、入場予定者全員をリスト化する。

なお各チームは競技会開催前にベンチ入り可能な 18 名以下(当日ベンチ入り可能なヘッドコーチ 1 名、アシスタントコーチ 1 名、マネージャー 1 名、選手最大 15 名)の登録を行う。

これに加えてトレーナー 1 名の登録を許可する。

※参加チームが学校の場合、学校から許可された教諭 1 名の登録を許可し、最大 20 名以下とする。

※ホイッスルスポーツ社による生配信ができない場合、各チーム 1 名まで、保護者による自チームの撮影を許可するが、事前に申請を要する。(申請の方法は別途競技会毎に定める)

- ・ COVID-19 対策チーム宛での連絡窓口(メール)を作成し、各チームからの質問などに対応する。

メールアドレス：nbba.covid_19@niigata-basketball.jp

- ・競技会参加チームの宿泊に関して、以下に留意すること。

(いずれも体調不良者が発生した場合に際して、集団感染を少なくするための方策の一つである)

- ① 宿泊部屋は個人利用が望ましい。
- ② 移動に際しては、チーム専用バスの利用が望ましい。
- ③ 各場面において人数制限を行い、集団行動を避けることが望ましい。

※参加チームが学校の場合は、学校長と相談をして判断してください。

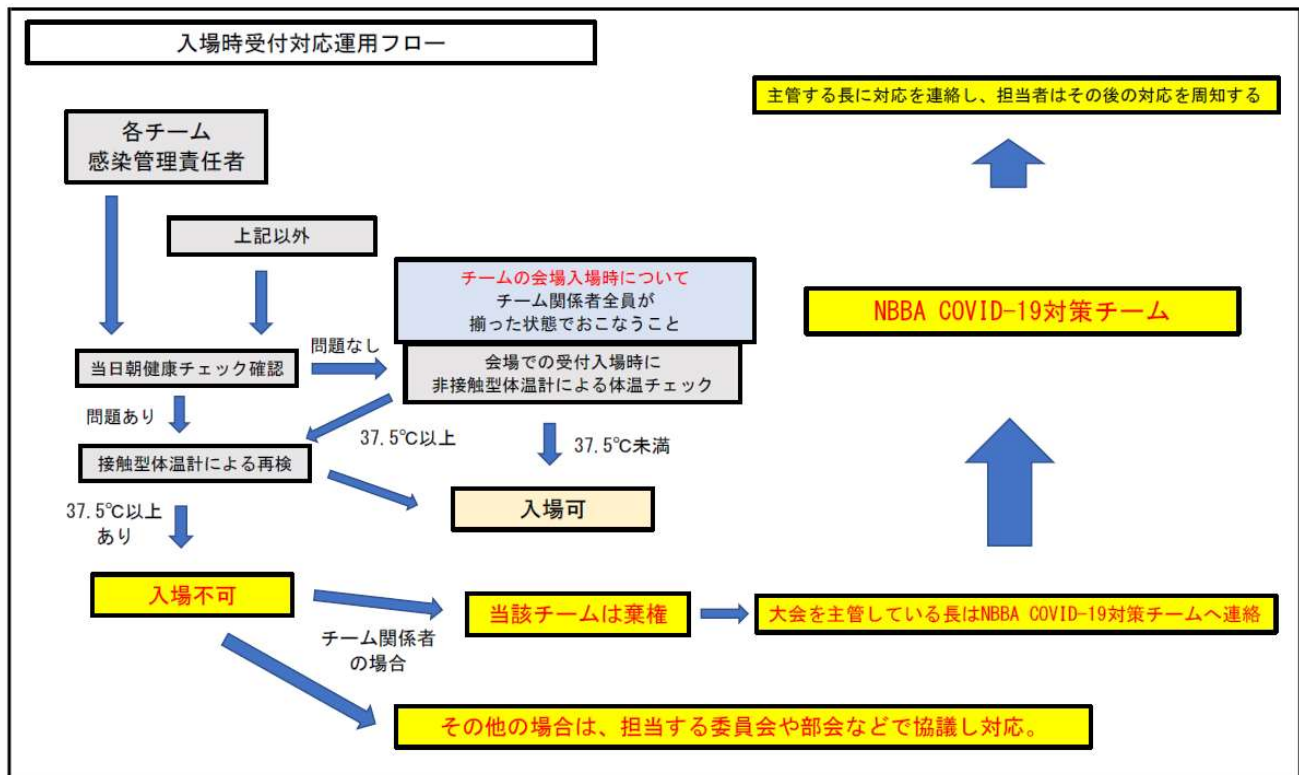
2) 試合会場への入場

- ・当該試合の前日、または前々日に活動を行ったチームにおいて、当該試合前日、または当日に体調不良者がチーム関係者にいる場合、そのチームは競技会に参加することができない。
 - ※自身の体調が良くない場合、また同居の家族等に感染が疑われる方がいる場合は、競技会の参加を自主的に見合わせることを。
 - ※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、競技会への参加が不可となった場合、当該の競技会関係者に対しての誹謗中傷が行われないよう、N B B Aとチーム関係者で最大限の配慮を行う。
- ・会場入場時に競技会関係者全員に対して、非接触型体温計により検温を行う。
 - 37.5 度以上の体温を有する競技会関係者は、腋窩（脇下）体温計にて再検温を行い、その結果、再度 37.5 度以上ある場合は入場を認めない。
 - ※チーム関係者の場合 → チームは競技会へ参加することができない
 - ※審判の場合 → 割当の変更をする

なぜ 37.5 度を基準とするか → 感染症法の届け出基準により、「発熱とは体温が 37.5 度以上を呈した状態」としているため。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/index.html

- ・入場可能時間は、第 1 試合のチームは試合開始の 70 分前、第 2 試合以降のチームは試合開始の 90 分前とする。（第 1 試合は会場の都合により 60 分前となる場合もある）
- ・入場受付時に密にならないように、各会場で配慮を行う。
- ・入場時に、非接触型体温計による検温を行う（入場制限に関する対応フローは別途参照）
- ・必要時、接触型体温計による再確認を行う。
- ・入口と出口は別とし、会場内は一方通行にする。
- ・マスク不装着者は入場できない。
- ・入場時に手指衛生用のアルコールを配備する。



3) 更衣（使用体育館のマニュアル・運用に応じて適宜変更する）

- ・会場備え付けの更衣室は、その広さに従い、一度に使用できる人数を指定する。
男子・・・ギャラリーやアップ会場などで、公然に配慮したうえで更衣を認める。
可能であれば、入場前に最低限の着替えを済ませておくことが望ましい。
- 女子・・・更衣室を利用する（更衣室内の人数については、競技役員の指示に従う）
- ・使用時間は極力短くし、更衣の最中もマスクを着用すること。
- ・審判の更衣室は別で設ける（困難であれば同一となるが、その場合時間を指定）。
- ・ミーティングは更衣室では行わない。

4) ウォーミングアップエリア

- ・相手チームと動線が交わらないように設定することが望ましい
- ・ウォーミングアップは息を上げる必要があるため、マスクの着用は必須としない。
- ・当該試合コートでのハーフタイムのウォーミングアップは行わない。
- ・ウォーミングアップ場所は役員の手配に従う。
- ・ウォーミングアップ場所が十分に確保できない場合は、試合開始の時間を調整し、選手のコンディショニングを最大限に配慮する。

5) 試合開始～終了

- ・更衣やウォーミングアップ会場での時間設定や動線を考慮し、各試合間は通常よりも長く設定し、十分な移動時間を設ける。(ベンチの消毒が終了した後、次試合の該当チームがコートに入る)
- ・握手は行わない。
- ・ベンチは、1メートル以上の間隔をあけて配置する。
- ・コート上の選手および審判以外は、原則的にマスクを着用する。
(ただし交代直後でベンチに戻った選手は、呼吸が整うまで、ベンチ後方、もしくはベンチ横に設置するクールダウンエリアで過ごし、その後マスクを装着しベンチに移動する)
- ・選手交代時、ハーフタイム時は手指衛生を徹底する。
- ・選手だけでなく、スタッフも適宜行動の前後に手指衛生を行うこと。
- ・ハーフタイムや試合間で可能であれば換気を行う。
- ・試合終了後はベンチの消毒を行う。
- ・T Oを行う関係者は可能な限りフェイスシールドを装着し、終了後はT O席の消毒を行う。
- ・フロアーワイパーはフェイスシールドの装着は義務付けない。終了後は席とモップの消毒を行う。
- ・試合後のボールの消毒も行う

6) その他

- ・開会式・表彰式・閉会式は、その時点の社会情勢を考慮し、開催の有無および参加人数を COVID-19 対策チームで検討し決定をする。
- ・使用する各体育館で動線を作成する。可能な限り、一般客との動線を分けることが望ましい。
- ・選手の怪我防止に最大限配慮する。(バスケット手帳を活用する：<https://b-techo.jp/>)
- ・会場内でミーティングを行わない。
- ・会場内で集合写真撮影を行わない。

③会場使用について(諸室・トイレ・飲食)

- ・各会場に感染対策責任者を配置する。
- ・競技会関係者全員に、ソーシャル・ディスタンスの確保を促す。(可能な限り2 m以上)
- ・各諸室の入室者制限を設ける。
- ・諸室に手指消毒液を配置する。
- ・常に窓を開け換気を行う。常時換気が難しい場合は定期的に換気を行う。
- ・連日で同会場を使用して競技会を開催する場合、各日で競技終了後にギャラリーの椅子などを含め、使用した場所の消毒を行う。
- ・蓋付きの便器は、必ず蓋を閉めて流水する。
- ・手洗いは30秒以上かけ、丁寧に行う。
- ・ゴミは各チーム(各自)で持ち帰る。
- ・感染防止対策に関する掲示物を受付、競技会本部、コート内、更衣室、トイレ等に掲示する。
- ・ガイドラインの内容が遵守されているか否か、各会場の感染対策責任者は、定期的に会場内の確認を行う。その方法として、NBBAバスケットボール協会HPよりチェックリストをダウンロードしてリストに基づき確認を実施する。<https://niigata-basketball.jp/participant>

- ・会場内での食事は原則禁止とする。ただし、職種によっては会場内で食事を行わなければならない場合があるため、その際は食事専用のスペース(部屋)などを用意すること。向かい合っでの飲食は行わず、同時に食べる人数を制限し、感染予防対策を徹底する。

※チームが会場内で昼食を食べなくてはならない場合は、感染対策責任者などと相談し、食事中の感染対策を徹底すること。

④その他重大インシデントは発生した場合

- ・(公財)日本バスケットボール協会が公開している JBA バスケットボール事業・活動実施ガイドライン第 3 版などを参考にして、N B B A COVID-19 対策チームで判断し、対応を決定する。

個人情報に関わること

- ・競技会参加のために提出する個人情報に関わる書類は、新型コロナウイルス感染拡大防止に関わる調査にのみに使用する。
- ・個人情報に関わる書類は、競技会終了後 3 週間 N B B A 事務局で保管し、その後、N B B A の責任下において破棄処分を行う。
- ・N B B A が主催する競技会の個人情報の取り扱い責任者は、N B B A 専務理事とする。

競技会期間中と終了後 2 週間の連絡体制については、以下の通りとする。

〈競技会期間中〉

1. 選手(保護者から) → チーム責任者 → 競技会本部 → COVID-19 対策チーム
2. 選手以外の競技会関係者 → 管轄する委員会や部会 → COVID-19 対策チーム

〈競技会終了後 2 週間〉

1. NBBA 事務局 → COVID-19 対策チーム

N B B A 事務局電話	0 2 5 - 3 7 8 - 2 8 7 7
COVID-19 対策チーム携帯電話	0 7 0 - 1 4 9 0 - 0 0 5 4

感染対策に ご協力ください



- ・大声を出したりしないこと。
- ・密になるミーティングなどはおこなわないこと。
- ・ジャグタンクやボトルなどの備品は共有はしないこと。
- ・更衣室が密にならないようにすること。
- ・ハイタッチや円陣などはおこなわないこと。
- ・手洗いをこまめにおこなうこと。
- ・こまめに換気をおこなうこと。

新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、皆様のご理解とご協力をお願いいたします